

焼酎リユースびん 推進事業について

1

平成21年11月4日

環境省九州地方環境事務所

今年度の取組について

- 鹿児島県を中心に焼酎リユースびんの普及拡大を推進する。
- 主として、五合びん(Rマークびん)の普及拡大を図る。
(一升瓶についても共通的な課題については検討)
- 「焼酎リユースびん推進会議」の開催
- 一般消費者への普及啓発



マークが目印



リユースびんについて

(リターナブルびん)

3Rの推進

びんの場合

リデュース(減量)

Reduce

リユース(再使用)

Reuse

リサイクル(再生利用)

Recycle

リユースびん

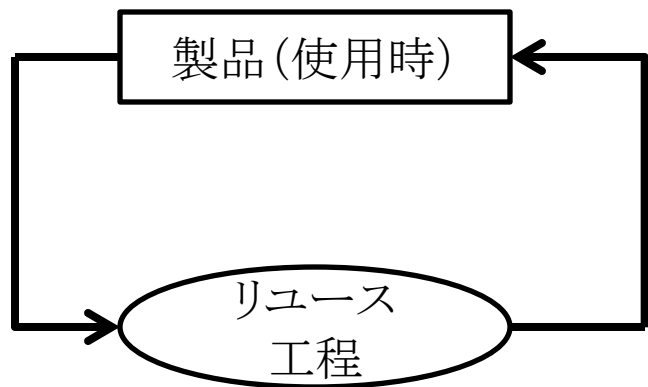
カレット化
(ワンウェイびん)

3Rのうち、リユースの取組
が遅れている。

優先度

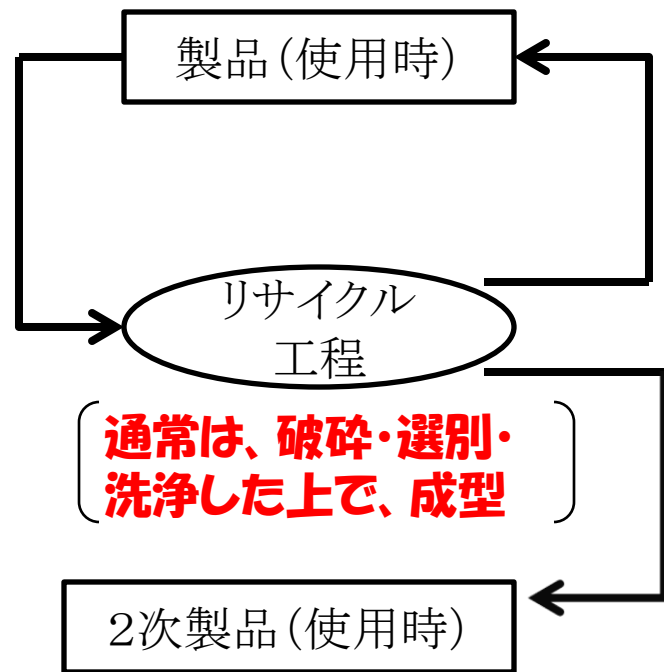
なぜ、リサイクルよりリユースが優先されるのか？

リユース(再使用)
Reuse



〔通常は、洗浄などの簡易的な処理〕

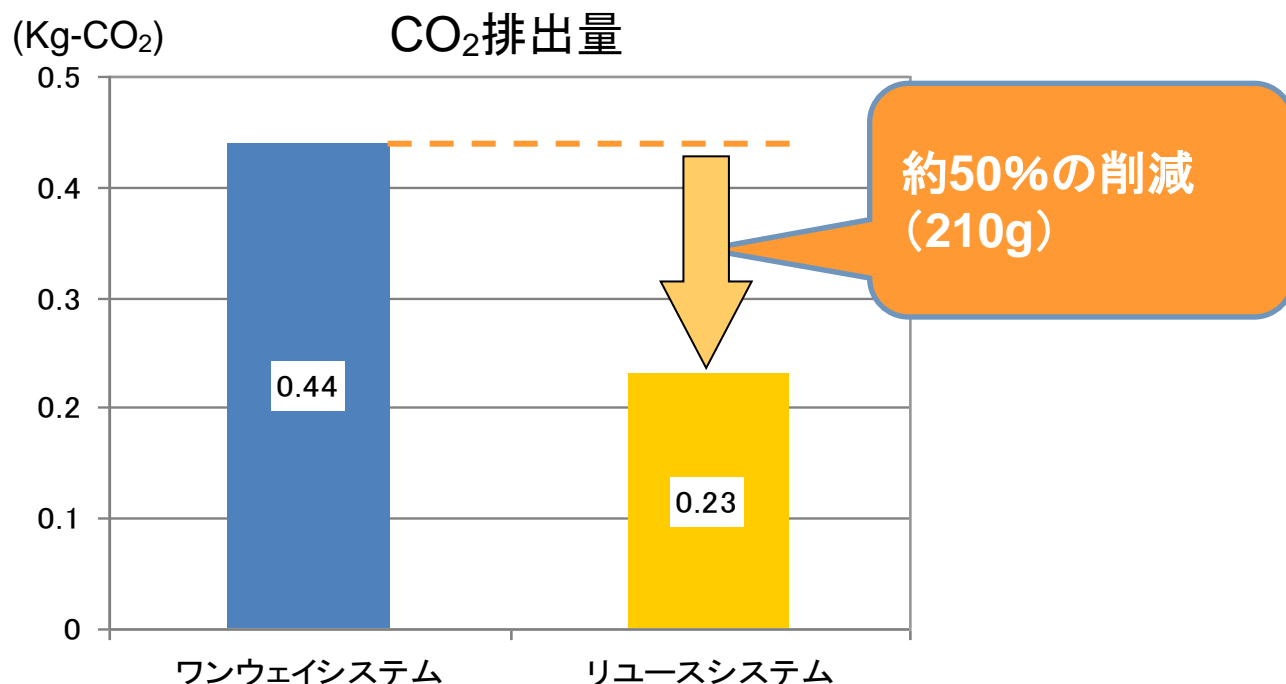
リサイクル(再生利用)
Recycle



〔通常は、破碎・選別・洗浄した上で、成型〕

リユースびんCO₂削減効果

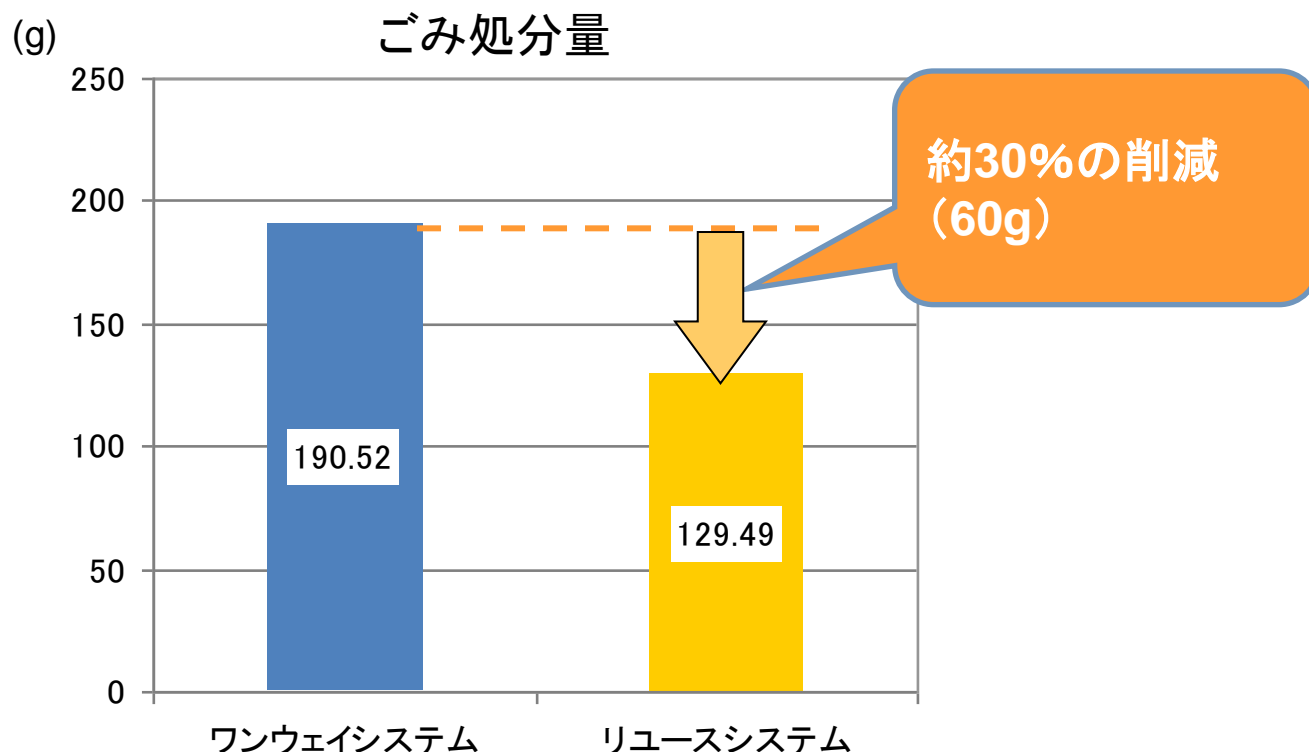
- リユースシステムの方がワンウェイシステムよりも環境負荷は小さい。
- CO₂排出量は半減、約210gの削減



※下記のシナリオを想定した際の結果であり、一例です。原料調達、製造、流通状況によって数値は異なります。
「リユースシステム」地域内循環シナリオ、Rマークびん900ml、回収率37%、販売拠点までの輸送距離100km
「ワンウェイシステム」ワンウェイびん900ml、回収率0%、販売拠点までの輸送距離1,300km（詳細は出典を参照）

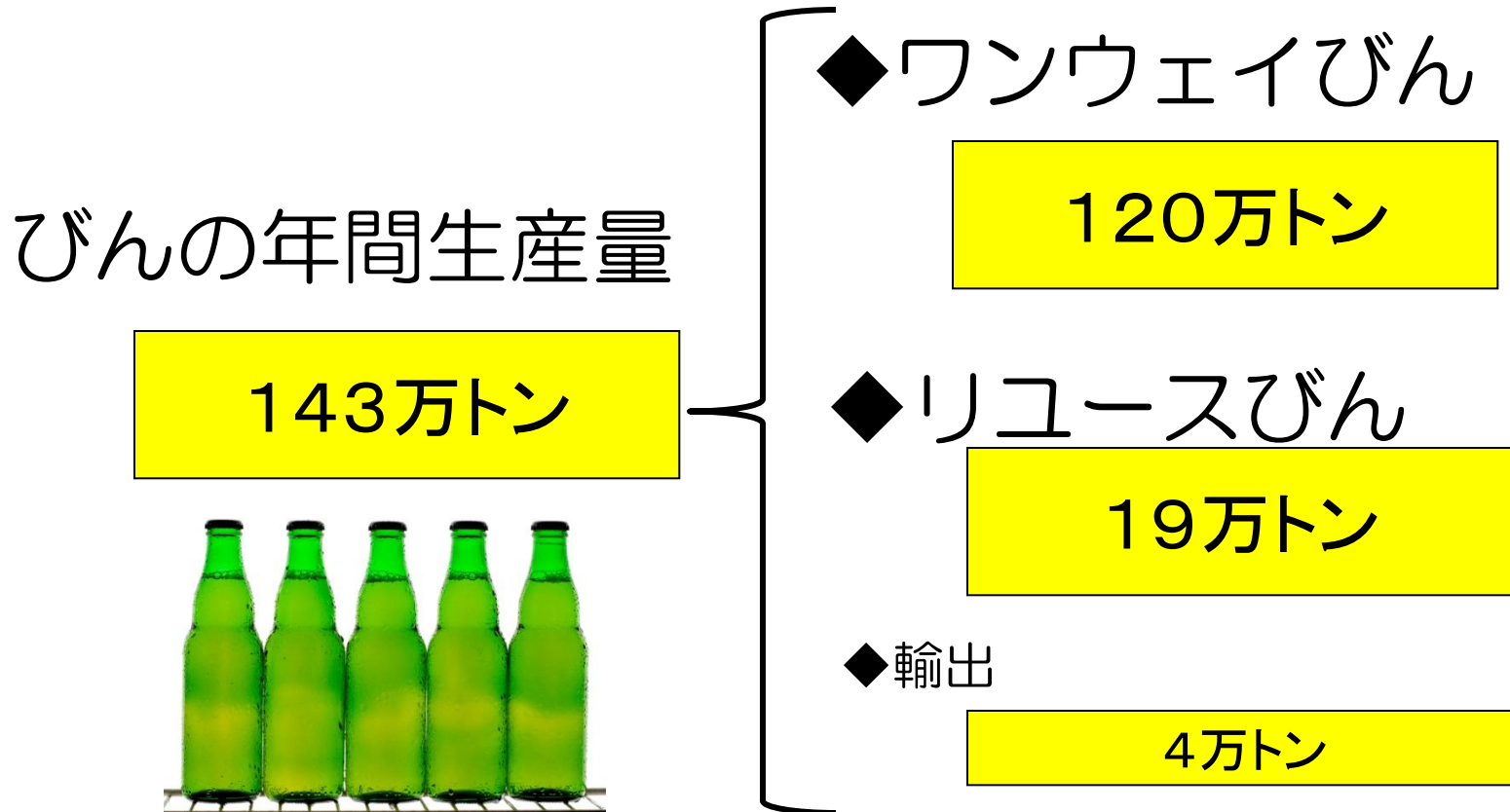
リユースびんごみの減量

- 約30%のごみの減量効果
- 廃棄するびんの量が減少するだけでなく、段ボールを減少することができる



※シナリオを想定した際の結果であり、一例です。原料調達、製造、流通状況によって数値は異なります。

リユースびん・ワンウェイびんの生産量



※リユースびんは繰り返し使われるため、市中にストックされ、年間使用量としては153万トン

※出典: ガラスびんリサイクル促進協議会ホームページ

リユースびんの事例①過去から

身近な一升びんやビールびんでは、昔からリユースが実践されてきた。

○ 一升びん

- 規格化されていて、飲料や調味料で幅広く利用
- 使用済みのびんは、昔から1本10円程度で引き取り

○ ビールびん

- 商品に保証金が上乗せされている
(1本5円)



○ 牛乳びん、コーラその他

リユースびんの事例②広がる取組

○ 生協の宅配商品での取組

- 高い回収率を実現（クローズドな回収が可能）
- グリーンコープでは、飲料や調味料など6種類のRマークびんを導入

○ 新潟・福島を中心とした清酒業界の取組

- 720mlのRマークびんを導入

○ 宮城県を中心とする清酒業界の取組

- 300mlのRマークびんを導入

リユースびんの事例②広がる取組

- 京都におけるNPOの取組
 - ほうじ茶(300ml Rマークびん)
- 居酒屋ワタミにおける取組
 - プライベート商品の清酒300mlにおけるRマークびんの導入
 - 静岡以東の400店舗で11月から開始
- リターナブルびんポータルサイトの開設
 - ガラスびんリサイクル促進協議会による取組

Rマークびんについて



- 日本ガラスびん協会が統一規格として認定
- 日本ガラスびん協会がデザイン(設計図)を有する
- びんのデザイン(設計図)が公開されており、各びんメーカーが製造可能
- 900mlびん(五合びん)のみではなく、さまざまな容量・形状のびんがある。

300ml、720ml、900ml
ジャム、ドレッシングなどなど

南九州におけるRマークびんの取組

- 平成15～16年
 - 「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」
 - 田中商店(熊本)を中心とする取組
 - 熊本・鹿児島県において11社が導入

5年間の実績

この取組を南九州で広げていく

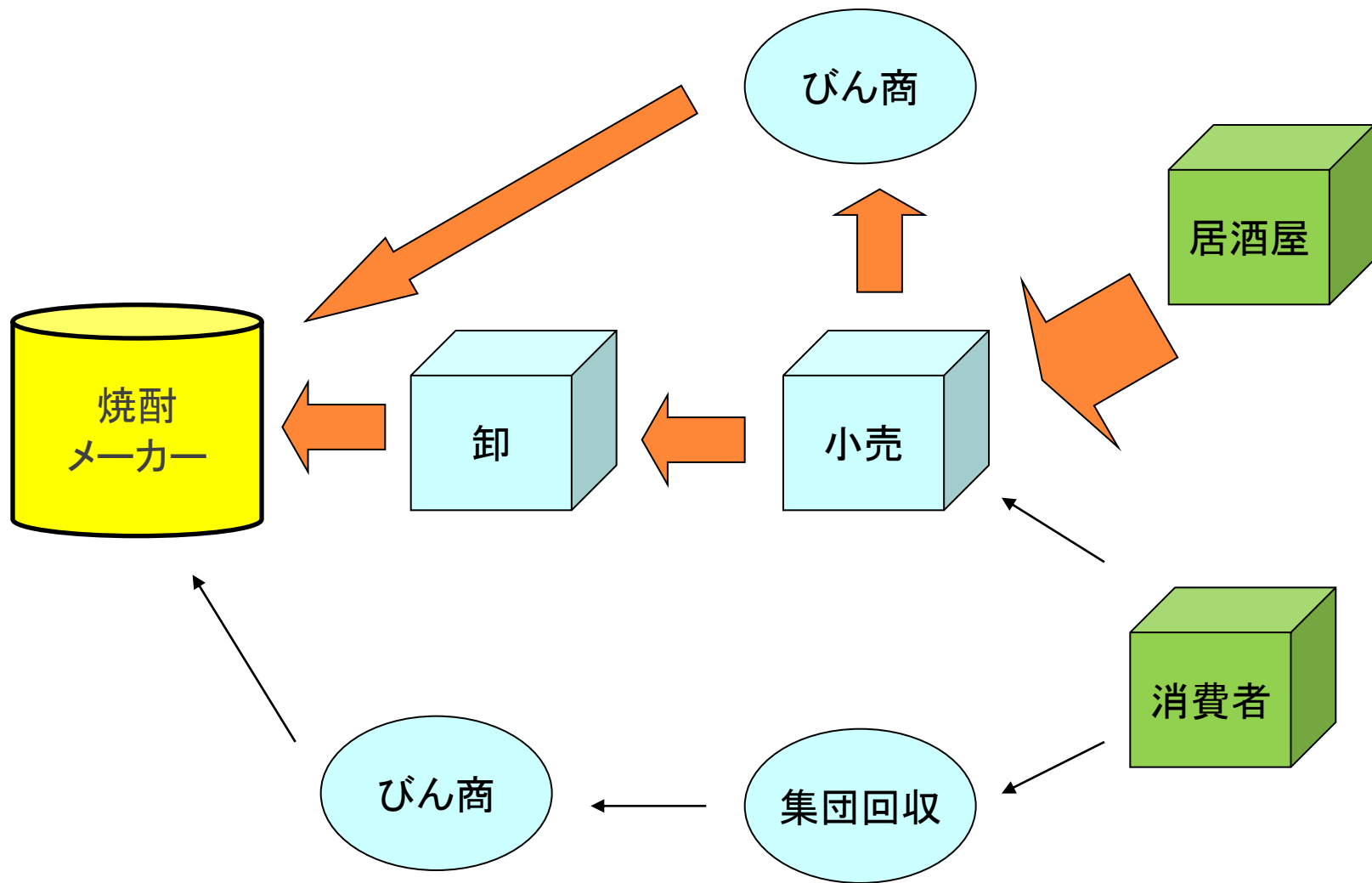
南九州におけるRマークびん導入状況

- 焼酎メーカーをはじめとする11社が採用。
 - 酒造会社 10社、醤油会社1社
 - うち、鹿児島焼酎メーカー4社
大口酒造、神酒造、大石酒造、植園酒造
- 900ml Rマークびんの出荷・回収量

	出荷量	回収本数	回収率
平成16年度	136万本	25万本	18%
平成18年度	189万本	54万本	29%
平成20年度	182万本	68万本	37%

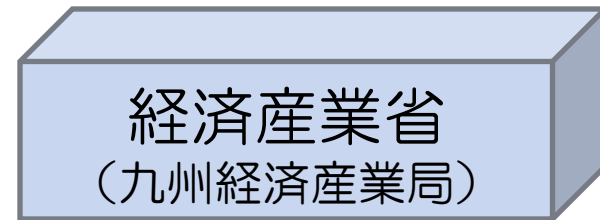
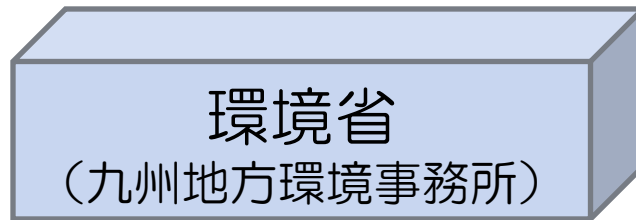
出典：(株)田中商店のデータより作成

焼酎リユースびんの返却の流れ



環境省九州地方環境事務所 経済産業省九州経済産業局 **の合同事業**

3Rの推進



平成20年度：
地域循環圏の構築
～各ブロックで特色ある取組の推進

平成20年度：
焼酎リユースびんについての調査

平成21年度～

焼酎リユースびんについて、合同で普及拡大事業を開始！

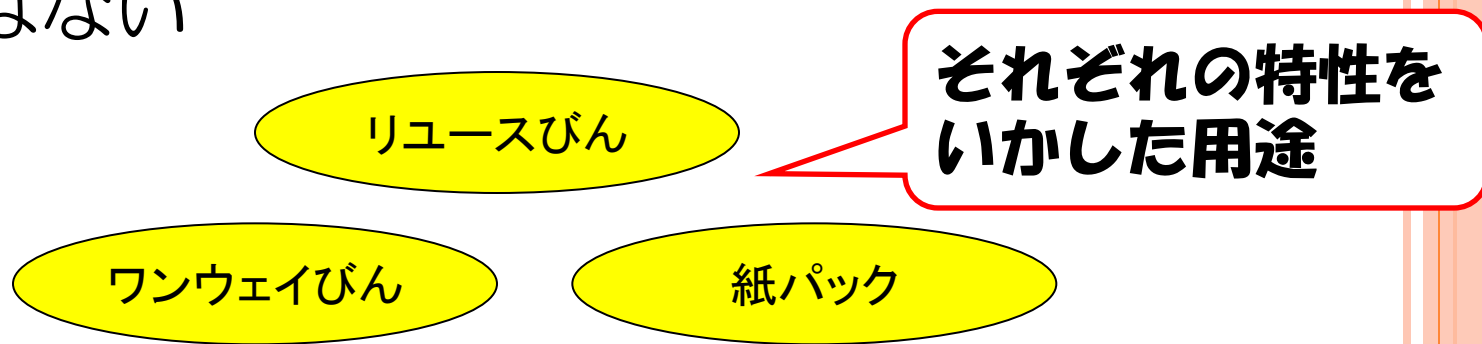
事業の基本的な 考え方

基本的な考え方(その1)

- 約5年間の取組実績を最大限活かす
(大口酒造、田中商店など)
- ✓ コスト、回収率など、5年間の実績を参考にすることが可能
～**びんの不良率は極めて低い**
- ✓ 消費者の反応についても参考にできる
～**びんのキズ等についてのクレームは増えない**
- ✓ P箱など流通方法についても参考にできる

基本的な考え方(その2)

- すべての容器をリユースびんにすることが目的ではない



- まずは循環しやすいところから取り組む

(例1)業務用のびん

- 商品を卸した逆ルートでの回収が容易
- 高い回収率が実証

(例2)九州内の出荷割合の多い銘柄

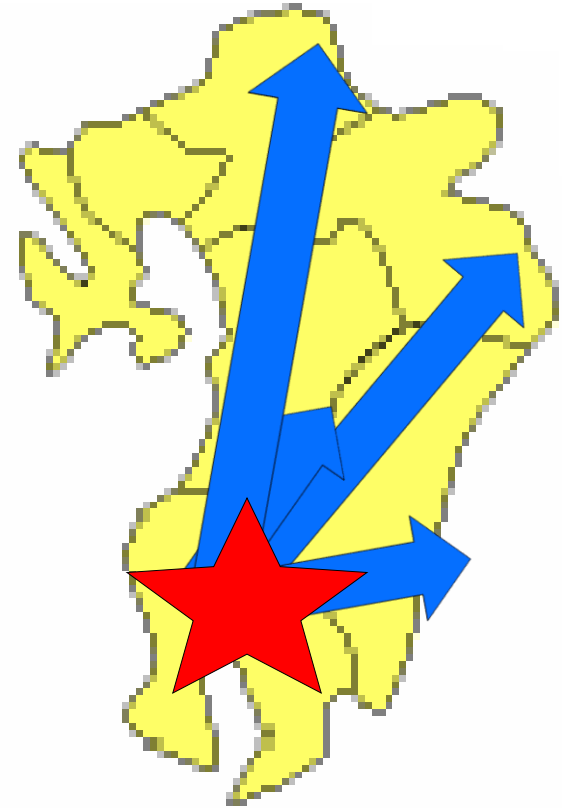
- 狭い地域内での回収が容易
- 環境効率性が高まる

基本的な考え方(その3)

- Rマークびんが広がることで、
「九州の焼酎は中身はおいしいし、ボトルもエコ」
という姿になることを目指す。
- 消費者の消費行動にエコの観点

基本的な考え方(その4)

- 今年度は鹿児島県を中心に取り組む。
- 鹿児島からはじめて、九州全域への取組へと広げる。



事業の具体的な内容

「焼酎リユースびん推進会議」の開催

- 幅広い関係者による会議
 - ✓ 酒造会社(県酒造組合、各支部長)
 - ✓ 卸・小売(各組合、個別企業)
 - ✓ 料飲・社交関係組合、消費者関係団体、環境団体
 - ✓ びん商
 - ✓ 行政
- リユースびん導入推進方策の検討
- 幅広い関係者、消費者の方々にリユースびんについて知っていただく場

事業その2

Rマークびんへの切り替えの呼びかけ・支援

- Rマークびんへの切り替えを、焼酎メーカーに呼びかけ・募集
- 切り替えを検討いただける焼酎メーカーに対して、
 - ✓ 切り替えに関するアドバイス等の支援
 - ✓ 環境負荷削減量の試算支援

事業その3

消費者への普及啓発

- Rマークびんを知ってもらう。
- リユースびんについての理解を深める
→環境配慮、多少のキズ
- 集団資源回収での回収の呼びかけ

シンポジウム開催

- 11月20日：
かごしま県民交流センター
- 多くの市民にRマークびんを知ってもらう

環境フェアへ出展

- 11月21～22日
かごしま県民交流センター
- Rマークびんや焼酎業界の環境取組を展示

関係者との連携

